

第4回 JR古賀駅東口周辺地区整備基本計画策定会議 議事要旨

日時	令和3年4月26日(月) 14時00分～16時00分		
場所	古賀市役所501会議室		
出席者 (敬称略)	委員	福岡大学工学部社会デザイン工学科 教授	柴田 久
		熊本大学くまもと水循環・減災研究教育センター 准教授	星野 裕司
		古賀市商工会 会長	藤本 芳博
		花鶴タクシー有限公司 代表取締役	保井 亨
		株式会社古賀タクシー 代表取締役	後藤 正典
		西日本鉄道株式会社自動車事業本部営業部営業第三担当課長	久池井 隆
		九州旅客鉄道株式会社総合企画本部経営企画部 鉄道・開発計画 担当課長	力武 基樹
		福岡県公立古賀竟成館高等学校 教頭	米原 光章
		福岡女学院看護大学 事務部長	武井 秀仁
		古賀市行政区 古賀東区長	尾塚 正明
		ニビシ醤油株式会社経営企画室 室長	玉谷 武志
		福岡県粕屋警察署交通規制課 課長	松田 雅文 (代理:岡野 弘治)
		国土交通省九州地方整備局建政部都市整備課 課長	若山 恭輔
		独立行政法人都市再生機構九州支社 都市再生業務部まちづくり支援室 まちづくり支援課 課長	高山 欣也
		古賀市	建設産業部都市整備課古賀駅周辺開発推進室
事務局	株式会社都市環境研究所		
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・議事次第 ・委員名簿(更新) ・資料1 駅前広場の規模と配置について ・資料2 公園整備における考え方 ・資料3 自由通路の機能とネットワークについて ・資料4 駐輪場配置の考え方 ・資料5 JR古賀駅東口周辺地区整備基本計画の構成について ・資料6 今後のスケジュールについて 		

<議事要旨>

1. 開会

2. 説明および意見交換

(1) 駅前広場の規模と配置について

駅前広場の規模と配置について説明

【意見交換】

(副座長)

スケジュールとしては、東口駅前広場整備が終わる前に西口駅前広場の検討は始まるのか。

(古賀市)

公共交通を検討する部署があり、また、西口エリアではエリアマネジメントの検討を進めているので、それらの状況も見つつ、具体の時期は未定ではあるが東口駅前広場完成前に検討を進めていきたい。

(委員)

東口が緑あふれる環境になるのであれば、西口でもある程度の緑がある環境をつくるべきだろう。景観を考慮すると、タクシーの台数については必要最低限の規模に絞ってはどうか。西口は昭和 38 年に決定された駅前広場の都市計画が残っており、規制がかかっている。規制を緩和する、緑の植栽帯を確保するなどして、東西の格差が生じないようにするべきである。

(事務局)

緑については、駅前広場の細かい計画のなかで詰めていきたい。規制については、今後、土地利用や規制誘導をどうするか考える中で検討していきたい。

(古賀市)

西口も東口と合わせて考えていくという中で、現在都市計画決定された西口の駅前広場区域については、現時点では何も触らない。

(委員)

東口のバスバースの現況が 1 台だが、2 台とする理由は何か。

(古賀市)

今年度から別の所轄で公共交通網の見直しを検討しており、バス路線の再編の可能性を考慮して 2 台程度必要だろうと考えている。企業バスの待機場の機能が求められる可能性もあるため、それに対応できるようにするという意図もある。

(委員)

できるだけコンパクトな駅前広場ということだが、一般車駐車が駅前広場内に設けられており、それは必要なのか。

(事務局)

駅前広場の規模は、バスを回すための最小回転半径として約 27m 必要であり、その周りに停車帯と歩道を設置している。その規模の中で、駅前広場の駐車場は現況台数分を確保するという考えで、中心部の島に現況台数分の駐車場を納めている。今後の検討の中で、駐車場が必要ないということであれば、駐車場を設けず緑地帯等にすることも考えられる。しかし、バスの回転半径を確保するために、島自体を小さくすることは難しい。

(2)公園整備における考え方

公園整備における考え方について説明

【意見交換】

(委員)

季節による環境の変化も考慮して検討して欲しい。公園に入れる店舗は質を重視し、地元優先という考えはやめた方がよいと思う。

(事務局)

四季ごとの使われ方、見え方については気を付けて計画を検討していきたい。ハード面だけではなく、催しや活動等、また管理面も考慮したい。

(座長)

事例にあげてある大濠テラスは、地元店舗が出店し、質の高い環境になっている。お金がどこに落ちるかということも今後考えていくべきだろう。

(委員)

公園の芝生を天然芝にすると管理に非常に手間がかかる。人工芝は排水にも優れ、よいものが最近出来ており、どう考えているか。

(事務局)

ご指摘の通り、天然芝は手間がかかり、養生期間が必要になり、他地区では芝生のエリアを分けて遊べる場所と養生場所を順次まわして対応している。また、人工芝の間に天然芝が生え、長期間利用できるというものもある。いずれにせよ、良い環境をできるだけ有効に利用してもらうことが大事だと思うので、ご意見を踏まえて検討していきたい。

(委員)

公園は都市公園として整備する予定なのか。公園ではパークPFIによる緩和もあるが、公園としての制限や管理の負担があるので、公園的な広場や民間用地でもよいのではないか。

(古賀市)

駅とリーパス広場をつなぐシンボル軸をつくるという方針のもと、具体的にどうするかこれまで庁内で検討してきた。例えば、シンボル軸を道路とすることも考えられるが、道路は公園以上に制約がある。市としてシンボル軸を整備するにあたり、公園によるオープンスペースがよくなった。検討区域にはエビシ醤油以外にも地権者がいることもあり、スムーズに整備を進めるためにも、市の都市計画事業として都市公園を整備するという考えである。管理については、資料にもあったパークPFIや指定管理等、今後詳細に検討していきたい。

(委員)

大濠公園等のある福岡市と比べると、古賀市では人口規模・立地条件が異なるため、集客力の高い企業を呼べるかという疑問である。西口も含めて魅力的で人が集まる環境になるように、地元企業が協力体制を構築してまちづくりを進めることが理想だと思う。

(古賀市)

できるだけ地元の事業者に参加してもらい、駅前を盛り上げていきたい。ナショナルチェーンが入る可能性もあるが、地元にお金が落ちないという課題もあるので、その視点も含めて検討したい。

(副座長)

公園は300mの長さがあるので、一つの考えで整備するのではなく、人工芝でいつも遊べるエリアや、雑草が生えている場所があるなど、複数の考え方があってよい。周辺との関係を踏まえて、丁寧に考えていければよい。スターバックスが出店しても地元の人しか利用しないことになり、周辺からも人を集めるという視点もないとよい運営や維持管理にもつながらないだろう。様々な検討事項のつながりや各機能の連携を意識して、丁寧に議論を進めて欲しい。

(3) 自由通路の機能とネットワークについて

自由通路の機能とネットワークについて説明

【意見交換】

(委員)

予算的な問題はあると思うが、自由通路には東西にエスカレーターをつけるべきだろう。今後高齢化が進む中で、バリアフリーは重要である。

(事務局)

エスカレーター、エレベーターについては、まだ決定ではないが交通結節点に必要なものとして適切な場所に設けられるよう検討していきたい。

(委員)

自由通路のイメージとして、単なる通路なのか、デッキ状の広い開放的な空間なのか。

(事務局)

自由通路の道路上空部分は道路という制限があるため広い幅員を確保することは難しいが、公園に達して以降の箇所にはまとまった開放的な滞留空間、眺望空間を設けたいと考えている。

(座長)

デッキ下に交番設置の可能性はありうるか。

(委員)

東口へ移すと線路で分断されている西口方面への対応に時間がかかり、現在の位置から変更して東口に交番を設置することが本当によいのか、総合的な判断が必要になる。

(副座長)

歩行者ネットワークという点では、バリアフリー動線をどう確保するのかという考え方を整理した方がよい。そのうえで自由通路の具体の配置を考えるべきだろう。現在東西駅前広場間を移動する人は約1,000人いるということだが、この人数が増えることが今回の整備の成功だろう。自由通路に人が集中しては公園に人が流れないので、エリア全体の連携という視点で今後も議論したい。

(4) 駐輪場配置の考え方

駐輪場配置の考え方について説明

【意見交換】

(委員)

自転車の動線が描かれているが、自転車は左側通行が基本なので、図の動線は実際と異なるのではないか。

(事務局)

自転車は車道を走る際には原則左側通行であり、基本原則はその形を考えているが、民地をセットバックしての公道以外の自転車ルート設置や、自転車専用帯の確保等についても検討していきたい。左折イン左折アウトのみでは対応できず、一部横断が発生する箇所がでてくるので、そこでは近くの歩道に入り、駐輪場にアプローチするという動線になると考えている。横断が最も少ないのが資料のD案だと考えられる。

(委員)

市の都市計画マスタープランでは、北側の工場についても将来的には土地利用転換を促すとある。2階建ての駐輪場は、工場が残る前提で考えたのか、それとも次も見越しているものなのか。駐輪場だけではなく、将来的な周辺の土地利用についても考慮した上で各機能の具体の配置や形状を考えていくべきではないか。

(古賀市)

古賀市の都市計画マスタープランが令和2年に改訂され、これまでは土地利用転換を促すという記載の文言を変更している。将来的には、東口整備により駅前が魅力的な環境となることで土地利用転換が進む可能性もあり、整備区域周辺を含めたエリアの将来像については引き続き考えていかなければならないと感じている。

(委員)

学生にとっては現状の駐輪場が無料というところで助かっている面がある。

(座長)

学生のみ無料にするなど、運用面での工夫は考えられる。

(副座長)

学生の自転車が盗難されるといった話はないか。

(委員)

学生は自転車に学校のステッカーを貼っており、盗難という話はあまり聞かない。

(委員)

現状、駐輪場には多くの自転車が停められている。整備に合わせて駐輪場を徐々に有料化し、駐輪台数を少なくしていかないと、東口を整備しても良好な環境にならないのではないかと。

(古賀市)

近隣の駅で有料化の駐輪場が増えているのは事実であるが、今回頂いたご意見も踏まえて駐輪場について検討していきたい。

(5)JR古賀駅東口周辺地区整備基本計画の構成について

JR古賀駅東口周辺地区整備基本計画の構成について説明

【意見交換】

(委員)

構成案の中に「今後の整備に向けて」とあるが、都市計画決定の時期や整備スケジュールについて教えて欲しい。

(古賀市)

都市計画道路、駅前広場については今年度中に都市計画手続きに入りたい。それ以外の公園や用途地域の見直しについては次年度以降の予定である。具体の整備時期については、まだ未定である。

(委員)

各機能の整備スケジュールについて、検討が進んだ段階で個別でも協議をお願いしたい。

(副座長)

これまで各テーマに沿って議論をしてきたが、東口の全体像を横目に見ながらの議論が望ましい。整備基本計画の中では、やはり整備基本計画図を委員の皆さんと共有することが大事であり、1枚絵があるだけでなく、横糸でほぐしたような整理になっているとよい。

(6)次回以降のスケジュール

次回以降のスケジュールについて説明

【意見交換】

(委員)

委員会は次回で一旦終わりということだが、バスのバース数の必要性等、事業者として今後詰める必要がある事項があると思う。今後は個別に協議をするのか、または会議の場が今後もあるのか。

(古賀市)

整備基本計画策定以降も、計画の検討は進めていく。より具体になった検討内容を示し、意見交換を行う場を設けたいと考えている。

次回策定会議 日時:令和3年6月18日(金)14:00~16:00

以上